

令和6年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	22	学校名	吉田特別支援学校駿遠分教室	記載者	杉本 友紀乃
------	----	-----	---------------	-----	--------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
安全・安心	ア 他者との安定した関わりを築き、自分や相手の良さがわかる教育活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> あいさつを含めた他者への関わりや、自ら思いを伝えられる児童生徒が増えた、と答える教職員 100% 自らの人権感覚や道徳心を高め、児童生徒の見本となる指導ができた、と答える教職員 100% 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 教職員が、児童生徒の手本となっている意識は良い。 咄嗟の際の呼び捨ては、問題ない。 振り返りが行われており、意識も高く良い。
	イ 児童生徒が安心安全に生活できる教育環境の整備と教員の対応力向上	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が安心安全に学校生活を送ることができるよう日常的に環境整備を行えた、と答える教職員 100% KYTを行うことで、いろいろな場面で危険を予知し対策を講じることができた、と答える教職員 100% 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 危険予知は、社会に出ても大事。
	ウ 事故や大規模災害等に備えた危機管理体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> 事故やケガ等の緊急時の対応力が向上したと答える教職員 100% 大規模災害時における自らの役割を理解し、日ごろから実際の動きをシュミレーションしながら勤務できたと答える教職員 100% 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 準備不足という部分を感じる。 「教えてもらう機会がなく。」は、社会では通用しない。自ら、学ぶ姿勢を大切にしたい。 学園との連携度は高い。 マニュアル等の仕組み作りが大切。
	エ 働きやすい職場環境づくりと組織的な対応ができる教員集団づくり	<ul style="list-style-type: none"> 日常業務や分掌業務を行う上で効果的・効率的な遂行を意識した業務改善に取り組めた、と答える教職員 100% 職場における良好な 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の人数が少ない中での業務の切り分けは、難しい。 振り返りが出来ている。 問題点が明確に捉えられているので、対応方法を見つけられる。 準備不足という部分も感じた。

様式第5号

		人間関係づくりを意識して、報・連・相や連携・協力を努めることができたと答える教職員 100%			・「教えてもらう機会がなく・・・」は、社会では通用しない。
授業	ア 学習指導要領を踏まえ、児童生徒の思考・判断・表現を引き出すための授業力の向上	・児童生徒の思考・判断・表現を引き出すための授業実践ができたと答える教職員 100%	A	A	
	イ 個別の指導計画における適切な目標設定と効果的な指導実践	・実態に応じた適切な個別の指導計画の作成ができ、効果的に目標達成ができたと答える教職員 100% ・分教室の児童生徒の特性を理解して支援につなげることができたと答える教職員 100%	A A	A	・100%は、すごいと感じる。 ・意識が高い方が多く、周りが安心できる。
	ウ 9年間の成長と自立を見通した各 部における教育課程の見直しと改善	・学年段階や個人の実態に応じて自立に向けた指導実践を行い成果が出たと答える教職員 100%	A	A	・学園の子供の発達段階がおさえられている。
	エ 個に応じた ICT 活用の推進	・児童生徒が理解を深めたり気持ちを伝えたりすることに ICT を活用できたと答える教職員 100%	A	A	
	オ 生涯教育につながる教育活動（文化・スポーツ・芸術）の充実	・児童生徒の体力の維持向上と日常的に運動に取り組む姿勢が実感できると答える教職員 100% ・表現力や想像力を高めるために読書や芸術活動（音楽・美術）に取り組める環境を整え、教育活動を推進できたと答える教職員 100%	A	A	・具体的な取り組みが、例年より多かった。 ・主体性が育まれている。
連携	ア 地域社会とつながるための教育課程の実現を目指した、地域資源を活用した授業の実施	・地域の資源や環境を活用した教育活動を通して、つながりを深められたと答える教職員 100% ・地域の方々に向けた	B	B	・評価が厳しいと感じた。 ・地域の状況もあるので、可能な限りで良い。 ・課題に対してのアプローチが重要である。

様式第5号

		作品展や日頃の学習活動を実施して「生徒の理解啓発につながった」と答える教職員 100%			
	イ 自己実現を図るためのキャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態や年齢に応じたキャリア教育の実践ができたと答える教職員 100% ・児童生徒の自己理解を深め、自己選択や自己決定を促す指導の充実が図れたと答える教職員 100% 	A	A	
	ウ 共生社会の実現に向けた地域・学校・家庭(学園)の連携強化	・必要に応じて地域の関係機関や保護者と連携して課題解決に取り組めたと答える教職員 100%	B	A	・B評価は、寂しい。